

(様式2)

# 学校関係者評価報告書

愛媛県立宇和島南中等教育学校  
学校番号 47

評価実施日		令和5年3月9日(木)	
委員	氏名	所属等	備考
	是澤 祐二	学校評議員(学識経験者)	
	稲澤 実	学校評議員(JR宇和島駅駅長)	
	松為 教輔	学校評議員(名門サカイ株式会社代表取締役社長)	
	武部 洋安	学校評議員(下灘漁業組合代表理事組合長)	
	渡邊 和允	学校評議員(宇和島警察署 交通課長)	
	土居 道德	学校関係者評価委員(伊達博物館館長)	
	山村 由美	学校関係者評価委員(宇和島市立明倫小学校校長)	
	田中 多紀	学校関係者評価委員(宇和島ケーブルテレビ 宇和島局 編成制作部長)	
	西村 美保	学校関係者評価委員(PTA顧問)	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の評価等について</p> <p>(1) 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・良好な結果が出ている項目が多い。ただ、保護者の評価が生徒・教職員の評価より低くなっており、これは、子どもや学校に対する期待の大きさの表れかと思われる。</li><li>・先生方は、分かる授業を展開し、基礎・基本の定着によく努めている。</li></ul> <p>(2) 生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生徒指導、部活動いずれの項目も良好な結果が出ている。先生方の指導の充実や生徒の頑張り保護者の思い等が伝わってきます。</li><li>・生徒指導においては保護者との連携も大切だと思います。</li><li>・部活動においては、指導の充実と教職員の負担のバランスを考えなければならぬ難しい課題があると思います。</li><li>・生徒のほとんどが携帯電話、SNSなどを活用していると思う。軽はずみの行動が犯罪行為になること。それだけでなく被害者にもなってしまいうことあるので、学校でもネットリテラシー教育を行ってほしい。</li></ul> <p>(3) 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・志望する学校への進路実現は、多くの生徒ができると思う。</li><li>・進路希望先の学校の選択に当たっては、適切な進路情報に基づいた適切な進路指導が必要、講話や講演、体験学習の充実などにより、生徒の視野を広げてほしい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・各教科の授業で学習方法についてのガイダンス機能を更に強化し、生徒の自主的な学習態度を養う。</li><li>・引き続き毎時間の授業内容に即した課題を、多少負荷がかかる程度の分量を課すことで、学習習慣の確立に努める。</li><li>・前期生については、体験的な学習を継続的に実施していく。</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>・部活動と学習の両立は常に、課題であり、短時間で効率のある指導を念頭において充実した活動ができるように工夫して指導に当たりたい。</li><li>・今年度も生徒への講習会の実施ができない状況であった。来年度も学級活動やホームルーム活動を利用し、SNSの利用に関する問題を取り上げ生徒間での話し合う活動など取り入れたい。</li><li>・生徒の実情を理解し、効果的で細やかな指導を実施したい。担任と家庭の連携を充実させたい。</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>・今まで実施が中止になっていた講演などの進路関係の行事について、今後は予定どおり実施し、生徒が考える機会を提供していきたい。</li></ul>

<p>(4) 人権・同和教育相談</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権意識の高揚に関するアンケートにおいて、生徒の自己評価が高い値を示しており、学校が日頃から様々な教育活動の中で人権学習に取り組んでおられることが理解できた。</li> <li>・学校生活に関するアンケートや、前期生に対しての月末アンケートは、いじめなどの悩みを抱える生徒にとっては、なかなか書きづらい面があると思うので、代わりに友だちや周囲の生徒が意見を書けるような工夫があればよい。</li> </ul> <p>(5) 健康・安全指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度はマスクをはずすなど新型コロナ対策において学校でも大きく変わってくるのが予想される。いち早くコロナ以前の学校生活を取り戻してほしいと強く思う反面、なかなかマスクを外せない子どもも出てくるのではないだろうか。一人一人の子どもに寄り添った指導をお願いしたい。</li> </ul> <p>(6) 図書・視聴覚・情報教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の活用に尽力されているのが伝わってくる一方で、教員の負担が増えていないか心配する。生徒の学習に対する理解・意欲につながる授業について、ただタブレットを使っているだけにならないよう、来年度の取組、成果結果に期待している。</li> <li>・南校ティーチャーズウィークの取組は、授業力を高め、教師の資質・能力の向上を目指す上で、効果的な取組だと思った。小学校でもICT機器の効果的な活用については研究を進めており、研究授業だけでなく普通の授業においても、また、家庭学習でも積極的に活用している。中等教育学校におかれても、今後ますますの活用を期待したい。</li> </ul> <p>(7) 学校評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価表が見つらい。</li> <li>・日々様々な分野に取り組んでいることを感じる。社会に出る準備段階である学校生活において、さらに子どもたちに地域の魅力を教えてほしい。地域との連携や交流を通してその歴史・文化を学び、その地域で生まれ育ったことを子どもたちに発信してもらいたい。大学卒業後も地元や地方に帰ってくるような子どもたちを育ててほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権・同和教育活動に対してのアンケート結果としては、評価ポイントは上昇していたが、いじめや様々な差別に対する解消実践力には課題が残るため、来年度は、特にいじめ問題に対しての教職員研修を充実させ、生徒に対しても、「いじめをしない、させない、許さない」といったメッセージを人権集会等を通じて、啓発していきたい。</li> <li>・アンケートに関しては、悩みを抱える生徒が思いを伝えられるよう、紙面だけではなく対面での面談も実施するなど相談体制を構築し、悩みを抱える生徒の友だちや周囲の生徒もアンケートに積極的に意見を書けるような聞き方の工夫もしていきたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度からコロナ以前の生活スタイルに戻ることが予想されるが、マスク等の対策については、本人の意志を尊重することが何より優先される事である。そのことを念頭に、一人一人に寄り添った声掛けに留意するとともに、引き続き、健康・安全に対する意識高揚に取り組んでいきたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員だけでなく、生徒も授業の中でICTを活用する場面をさらに増やしていく。そして、効果的な活用を目指し、教科の特性等も考慮しつつ、より実践的なものになるよう研究に努めたい。また、バランス良く活用し、教員の働き方改革や生徒と向かい合える時間の確保にもつなげたい。</li> <li>・ICT機器を扱う頻度は確実に増えたが、まだまだ操作に不慣れな部分や教員間での取組の差もある。今後も随時校内研修を実施し、教職員全員が機器を使いこなしていけることを目指したい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は項目を大幅に削減し、全体を裏表一枚に収めた。来年度も学校再編に向けて、項目の精選に努めていきたい。</li> <li>・地元慣れ親しみ、ふるさとを愛する生徒を増やしていけるように、今後も知恵を出し合い、地域の力をお借りしながら、生徒たちの活動を充実したものにしていけるよう努める。今回の学校評議員会並びに学校関係者評価委員会でいただいた御指導・御助言をしっかりと来年度の教育活動に生かしていきたい。</li> </ul>
<p>2 説明・公表等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域にも学校の取組について積極的にピーアールすべきである。ホームページを閲覧している保護者も多いため、引き続きホームページ等での発信をお願いしたい。また、授業公開日は、生徒が研究成果を発表する等のイベントがあれば、参観する保護者は増えると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、学校について知っていただけるよう、機会を逃さず工夫しながら、地域や保護者に向けてこまめな情報発信に努めたい。</li> </ul>

### 3 学校運営への提言

#### (業務改善)

・新型コロナウイルス感染症拡大への対応が長期化する中、生徒たちを第一に考え、奮闘されている教職員の過重負担が心配である。

・小学校でも、民間企業でも、業務改善に取り組んでいる。業務に携わっていない時間を大切にしてほしい。

#### (コロナ禍における教育活動)

・様々なことが制限される中、可能な限りの対策を取り、勉強、部活動ともに継続してほしい。また、学校での活動や取組などを地域をはじめ外にどんどん発信する機会を設けてほしい。

#### (県立学校再編整備計画)

・県立学校の再編が発表になり、地域住民はもとより卒業生そして現在学んでいる生徒やその保護者、そして先生方も振り回されて大変だと思います。子供の数が減っているので仕方がないことですが。

・前期課程募集停止となり、今後、宇和島東高校と同じ土俵で勝負することになる。総合学科と水産学科が設置されるということで、魅力ある学校づくり、地域の特性を生かした教育をお願いしたい。

#### (業務改善)

・一人1台端末の利活用、学校行事等のスリム化、時程の見直し、各書類・教材の簡素化やデジタル化、連絡業務の効率化や会議の縮減や簡素化、ホームページやメール連絡網「マチコミ」等による保護者への速やかな情報提供、「マチコミ」や自動音声メッセージ等を活用した勤務時間外の電話対応等、教職員の勤務時間の削減や業務改善に努め、働き方改革に取り組んでいきたい。

・勤務時間の削減のみにとらわれず、学校全体で共通理解を持った取組、風通しの良い職場づくりや職場環境の改善、ワークライフバランスの実現等、教職員の「やりがい」や「幸せ」に着目した働き方改革を進め、教育の質の向上を目指していきたい。

#### (コロナ禍における教育活動)

・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校行事等は、昨年同様、中止または延期、縮小して実施した。しかし、生徒は昨年の取組を参考に、できる範囲で、できる事を精一杯取り組んでくれた。今後も生徒会を中心に意見を集約し、コロナ禍でも充実した教育活動が実施できるようにしていきたい。

#### (県立学校再編整備計画)

・来年度、最後の入学生になる生徒は、後輩が入学してこない。リーダー的役割を担う学校行事の減少や、部活動の大会における団体での参加が困難になってくる。新しい学校の設立も大切であるが、こういった状況であるにもかかわらず入学してくれた生徒のため、卒業時、「入学してよかった」と言える体制づくりに努めたい。

・幅広い選択科目の中から、自分で科目を選択し学ぶことが可能な総合学科の特徴を生かし、生徒の個性を生かした主体的な学習と進路実現が目指せる学校づくりに取り組みたい。

・水産学科が設置されることで、UGI事業の成果を継承的に発展させ、地域の活性化に貢献できる人材育成に取り組める学校にしていきたい。